

方針

- 思想や思考のパラダイムの尊重
 - 異文化理解
- 様々な立場の尊重
 - 国
 - 流派
- 臨床現場への配慮
 - 急激な変化の回避

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

3

方法

- 参画者
 - 情報学関係者, TEAM関係者
- モデリング枠組
 - UML, Conceptual Framework
- モデリング対象
 - 体系の概略像, 陰陽五行 と 気血津液の一部,
 脣穴定位法, 脣穴定義, 生薬と方剤定義の一部
- 参照リソース
 - WHO文書, 本邦の教科書, 中国の教科書など
- モデリング目的
 - ISO/TC215 などでの説明資料や標準素案として

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

4

Conceptual Framework

Concept	
Intensional Definition	
Semantic Link : [Characterizing Concept] ∈ Characterizing Category	
Semantic Link : [Characterizing Concept] ∈ Characterizing Category	
Semantic Link : [Characterizing Concept] ∈ Characterizing Category	
	
Infectious Pneumonia	
hasCause : [bacterium] ∈ CAUSE_of_INFLAMATION	
hasLocation : [LeftUpperLobeOfLung] ∈ LUNG_STRUCTURE	
hasSeverity : [moderate] ∈ SEVERITY	
<INFECTIOUS_ORGANISM> = { bacterium, virus, parasite }	
<CAUSE_of_INFLAMATION> = { INFECTIOUS_ORGANISM, autoimmune, chemical, physical }	
<LUNG_STRUCTURE> = { Right: 3 lobes, Left: 2 lobes }	
<SEVERITY> = { low, moderate, high }	

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose 5



直面した困難さ（多義性/多面性）

- 基礎概念
 - ・ 例) 陰陽, 五行, 気 / 血 / 水 (津液)
- 診断過程
 - ・ 例) 虚実
- 脈穴
 - ・ 位置 例) 迎香, 合谷, 中衝 ...
- 生薬
 - ・ 基源 例) 柴胡, 人参, 龍骨 ...
 - ・ 修治 例) 生姜, 甘草, 附子 ...
- 方剤
 - ・ 構成 例) 消風散, 温経湯
 - ・ 度量衡

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose 6



Formulation of Shofusan 消風散

Traditional Japanese medicinal formulation	Traditional Chinese medicinal product
Sekko (Gypsum)	Sekko (Gypsum)
Jio (Rehmannia Root)	Jio (Rehmannia Root)
Toki (Japanese Angelica Root)	Toki (Japanese Angelica Root)
Sojutsu (Atractylodes Lancea Rhizome)	Sojutsu (Atractylodes Lancea Rhizome) [fried]
Bofu (Saposhnikovia Root)	Bofu (Saposhnikovia Root)
Mokutsu (Akebia Stem)	Mokutsu (Akebia Stem)
Sentai (Cicada Periostracum)	Sentai (Cicada Periostracum)
Kanzo (Glycyrrhiza)	Kanzo (Glycyrrhiza)
Keigai (Schizonepeta Spike)	Keigai (Schizonepeta Spike)
Goma (Sesame)	Amashi (Flax Seed)
Chimo (Anemarrhena Rhizome)	Jikoppi (Boxthorn Root Skin)
Kujin (Sophora Root)	
Goboshi (Burdock Fruit)	

This table is created by Prof.Toriizuka

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

8

Formulation of Unkeito 溫經湯

Traditional Japanese medicinal formulation	Traditional Chinese medicinal product
<i>Goshuyu</i> (Evodia Fruit)	<i>Goshuyu</i> (Evodia Fruit) [specific processing]
<i>Ninjin</i> (Ginseng)	<i>Tojin</i> (Codonopsis Root)
<i>Keihi</i> (Cinnamon Bark)	<i>Nikkei</i> (Cinnamon)
<i>Shoga</i> (Ginger)	<i>Kankyo</i> (Processed Ginger)
<i>Bakumondo</i> (Ophiopogon Tuber)	<i>Ogi</i> (Astragalus Root)
<i>Hange</i> (Pinellia Tuber)	<i>Bukuryo</i> (Poria Sclerotium)
<i>Toki</i> (Japanese Angelica Root)	<i>Byakujutsu</i> (White Atractylodes Rhizome) [fried with bran]
<i>Kanzo</i> (Glycyrrhiza)	<i>Bushi</i> (Aconite Tuber) [specific processing]
<i>Shakuyaku</i> (Peony Root)	<i>Jinko</i> (Agarwood)
<i>Senkyu</i> (Cnidium Rhizome)	<i>Koboku</i> (Magnolia Bark) [processed with ginger]
<i>Botampi</i> (Moutan Bark)	<i>Ukon</i> (Turmeric)
<i>Akyo</i> (Gelatin)	

This table is created by Prof.Toriizuka

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

9

直面した困難さ（存在/認識/論理）

- 哲学

- 存在論、認識論、論理系 の差異

- 医学

- 個別性と分析性 vs 総体性と一体性
- 陰陽：メタ弁別素性？、相互転化も消長平衡も
- 五行：メタ弁別素性？
- 関係や変化に「その論理系」を想定 & 適用
- 分類や階層化での非明示的な「軸性」や「節」
- 用語は現代医学と相応しない
 - 観念的な側面、機能的な抽象

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

10

直面した困難さ（既存語の多義化）

- 現代医学用語へ override

- …いや 実は、歴史的には、逆だった、とも。
蘭方医が やむなく？既存の漢方用語を流用：
- 現代医学用語 → 漢方用語で代用
そして ← 漢方用語

- 混乱。とくに「近代化」の過程で

- 現代医学での解剖学的な Liver
- TEAM の観念的 & 機能抽象の Liver (TRM)

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

11

直面した困難さ（用語の表記）

- 英語英字

- エントリー用語としての役割は担わせる
中心的な存在とするのは適切と感じられない
- ユーザーは誰か

- 漢字表記

- 異字体
- 非存在

- 音韻表記

- 拼音 (pinyin) , 注音符號 (Bopomofo)
- ハングル

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

12

対処とモデル化

- 当面の典拠主義

- 段階的な収束に向け典拠を明示しつつ整理
 - 管理用の同定子

- 多言語への対応

- 言語、文字種、表音
 - IETF Language Tag
 - 管理用の同定子

- 語と概念のモデリング

- 既存の一般的なモデリング枠組では ...
 - ある種の Ontology tool が助けになるかも

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

13

考察

- 多義性と多面性

- Localization と Customization

- 中国語の性質と傾向

- モデリングの以前に

- 異形文字

- 説明可能性

- 思考の原理もしくは性向

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

14



結語と謝辞

- TEAMに携わる者には自明？
漢字文化圏の日常では特段の問題とならず
済ませられてきた？
- 情報や概念のモデル化では先鋭に現出した。
- 異文化に根ざした知識体系を誠実に理解し
表現しようとする際には共通して現れる
課題と思われた。
また一部については現代医学知識も同様の
課題を内在しているように思われた。
- 本研究の一部は厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進
研究事業）「ISO/TC249に資するための伝統医学関連の用語・疾病
分類・デバイス・安全性確保などの基盤整備研究」
H22-医療-一般-013）からの補助も受けて実施された。

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

15



EOP

2010.11.19 © Prof.Yasuyuki Hirose

16

情報モデルと概念枠組

廣瀬 康行（琉球大学）

平成23年1月23日 筑波技術大学 講堂

共催
第291回 日本医療・病院管理学会 例会
全日本鍼灸学会 用語委員会「鍼灸の標準化を考える会」
厚生労働科学研究（H22 - 医療 - 一般 - 013）公開シンポジウム

Outline

- Term and Domain
 - Polysemy
- Model
 - Individual/particular vs. Universal
 - Instance vs. Concept
- Modeling
 - UML : Unified Modeling Language
 - Conceptual Framework (ISO 1087, ISO 17115)
- Examples, Meta model, Ontology

Term and Domain 用語と領域

- 用語標準化

- 情報の、齟齬のない交換
 - ・西洋科学や現代医学においては数世紀の努力の歴史
 - ・EBM なり GMP なりの基盤
- 言語化
 - ・暗黙知の表出化
 - ・知の機械処理

- 現代的な目的に重要なのは用語か？

2011.01.23 © Prof Yasuyuki Hirose

3

Polysemy 多義性（とシンボル）



cat



wild cat



2011.01.23 © Prof Yasuyuki Hirose

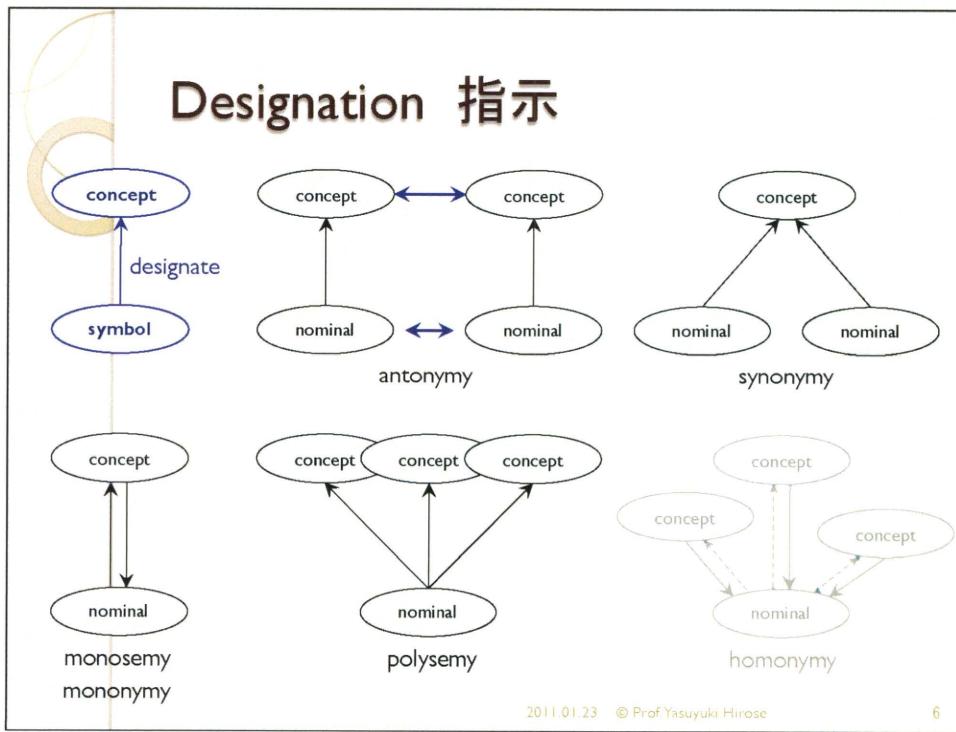
4

Polysemy & Domain 多義と領域

domain : weapon for attack

offensive

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose 5



用語整理は必須の基礎；更に先へ

- 似て非なる知的作業
 - 用語の標準化
 - 概念のモデル化
 - 概念の標準化
- モデリング手法
 - 記述枠組
 - シンボル：絵図・言葉
 - 記述規則：文法
 - 紹介
 - Unified Modeling Language
 - ISO 1087, ISO 17115

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

7

Model

- Individual / particular 個物 / 具体
- Universal 普遍 / 概念
 - 色（果皮の色調）
 - 風味
 - 産地
 - 双子葉植物綱 - バラ亜綱 - バラ目 - バラ科 - ナシ亜科 - リンゴ属
 - そのほか、他の事物との関係



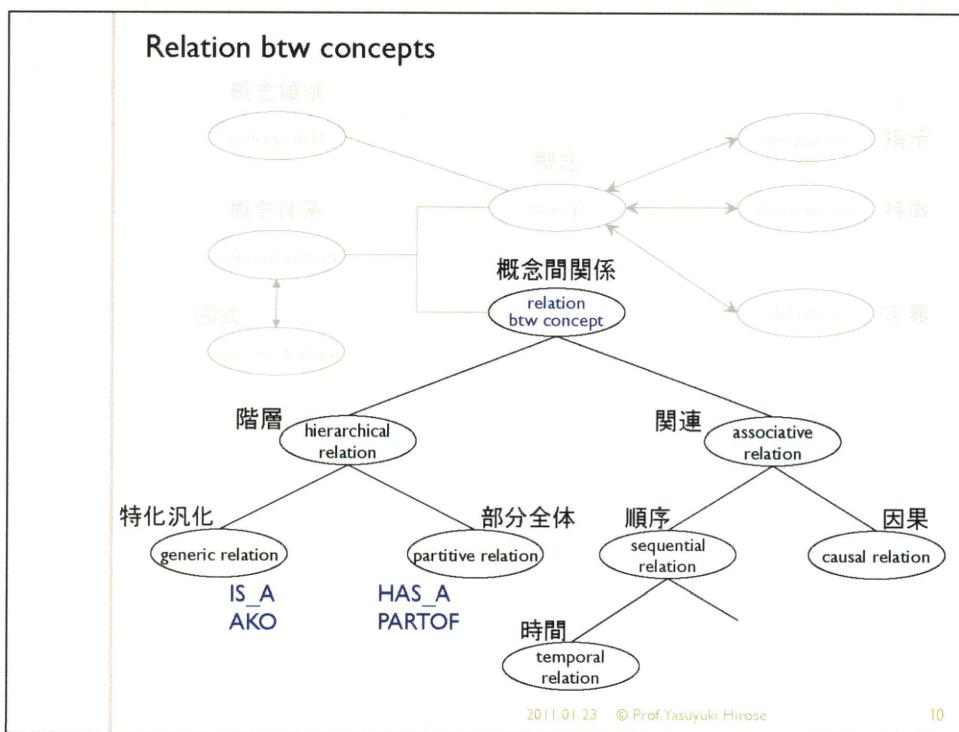
2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

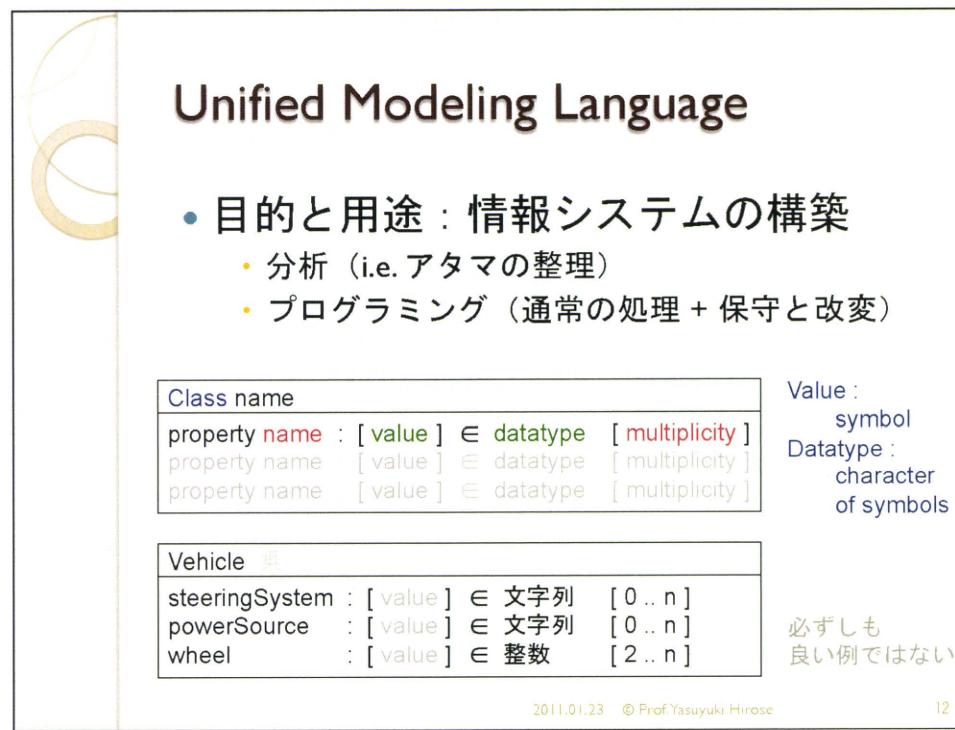
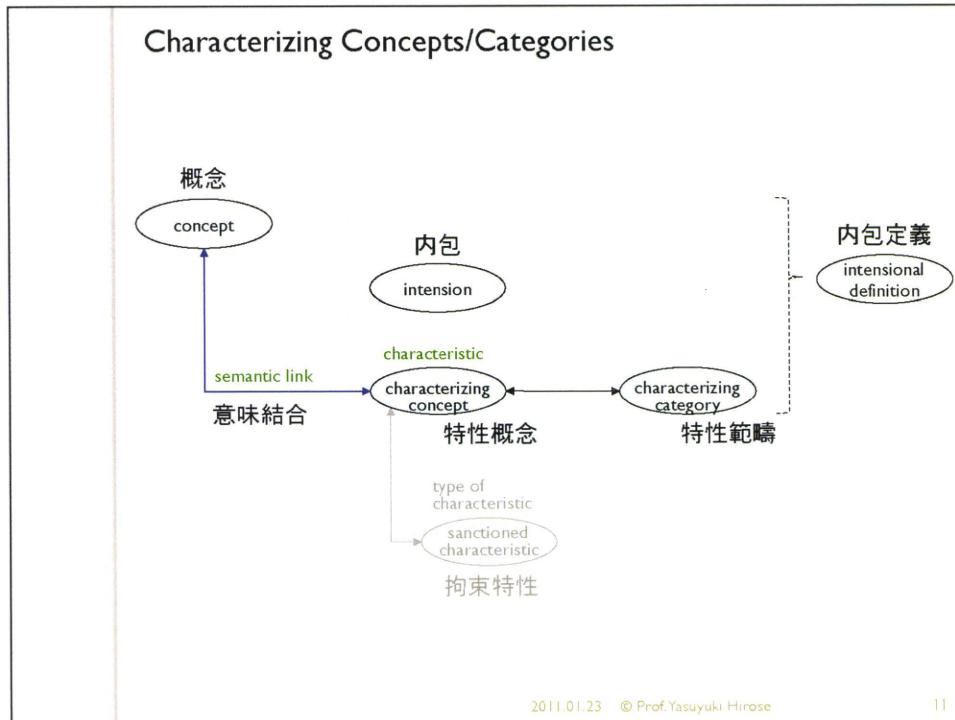
8

Model

- Instance 個物 / 具体 
- Concept 普遍 / 概念
 - Characteristic / Property 特徴 / 特性 / 性質
 - Relation 関係
 - btw concepts - 概念 対 概念
 - Hierarchical relation - 階層
 - Associative relation - 関連
 - btw concept & property - 概念 対 属性

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose 9





Conceptual Framework

- 目的と用途：概念と用語の定義
 - 対象領域に即した 関係の明示
 - 対象領域に即した 特性の範疇の明示

Concept name

Semantic Link :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category
Semantic Link :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category
Semantic Link :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category

Vehicle 車

domain dependent

hasSteeringSys :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category
withPowerSrc :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category
hasWheel :	[Characterizing Concept]	\in	Characterizing Category

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

13

PROCEDURE & EXAMPLES

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

14

Ex. - design and develop

- 収集
- 抽象
 - 捨象 : 共通項として抽象できないなら
- 構成
 - 制約
- 検証
 - 容認性, 弁別性, 網羅性
- 命名
 - 抽象性

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

15

Ex. - represent and name #1

Vehicle		
steeringSystem	: [value]	∈ 文字列 [0 .. n]
powerSource	: [value]	∈ 文字列 [0 .. n]
wheel	: [value]	∈ 整数 [2 .. n]

必ずしも
良い例ではない

Prius™ トヨタの自家用車の一つ		
steeringSystem	: [powered]	[1]
powerSource	: [hybrid]	[1]
wheel	: [4]	[4]

Chariot 古代の戦車		
steeringSystem	: [reins, shifting weight]	[0]
powerSource	: [horse]	[0]
wheel	: [2]	[2]

妥当なモデルか
妥当な手法か？

2011.01.23 © Prof.Yasuyuki Hirose

16

Ex. - represent and name #2

Vehicle 車	<i>domain dependent</i>
hasSteeringSys : [Characterizing Concept]	∈ Characterizing Category
withPowerSrc : [Characterizing Concept]	∈ Characterizing Category
hasWheel : [Characterizing Concept]	∈ Characterizing Category

Primal Vow 本願	<i>domain : Buddhism</i>
hasSteeringSys : [Noble Eightfold Path 八正道]	∈ Teaching of Buddhism
withPowerSrc : [embrace Buddhism 発菩提心]	∈ Ethics in Buddhism
hasWheel : [Six Perfections 六波羅蜜]	∈ Virtues in Buddhism

Chariot 古代の戦車	<i>domain : ancient means of transportation</i>
hasSteeringSys : [none]	∈ Equipped System
withPowerSrc : [horse]	∈ Animal (not equipped)
hasWheel : [wooden w/o tire]	∈ All kinds of wheel

2011.01.23 © Prof. Yasuyuki Hirose

17

Ex. - design again - among diff dom

- 白
 - 色彩ドメイン
 - 色調, 彩度, 明度
 - 波長, 反射／透過
 - 文学ドメイン
 - Pure / Mixed
 - Innocuous / Noxious
 - Strong / Vulnerable
 - 哲学ドメイン (認識論 ; 存在論)
 - 五行など
 - 刑事ドメイン
 - Justice / Injustice
 - Legal / Illegal
 - Innocuous / Noxious

2011.01.23 © Prof. Yasuyuki Hirose

18

伝統医学の国際標準化に資するためのUMLモデリングワークショップ

開催：平成22年11月27日（土）、11月28日（日）

場所：アーヴェストホテル蒲田 会議室

Modeling workshop

伝統医学の国際標準化に資するための UML モデリング ワークショップ

厚生労働科学研究助成：

ISO/TC249に資するための伝統医学関連の用語・疾病分類・デバイス・安全性確保などの基盤整備研究（H22 - 医療 - 一般 - 013）

平成22年 11月 27日（土）28日（日）

参加するには事前登録が必要です

開始に遅刻すると初期支援できません

会議室は9時には解錠されています

会議室にはネット環境はありません

終了時刻を延長することがあります

概要（予定）：

11月 27日（土）10:00～

午前 Use case diagram

午後 Sequence diagram

Activity diagram

11月 28日（日）10:00～

午前 Class diagram

午後 Class diagram



アーヴェストホテル蒲田（東口） 03 - 3739 - 0002

持参する物：Astah* をインストール済みの各自のノートパソコン

いずれかで準備：

聞く（web） 35 分程

読む（web） 90 分程

読む（書籍） 90 分以上

支援と資料：

導入：こちらへ

配布：こちらへ

お題：こちらへ

Introduction

モデリングとは、或る観かたのもと、対象群の本質を見極め、それを図式化して表わすことである。
或る観のもと、或る状況（すなわち「パ」）において、そのなかにある「モノ」や「コト」を同定し、それらの「つながり（関係）」を同定すること、である。
言い換えれば **対象と構造を定式化** すること、である。或いは **分解して統合** することである。
よって モデリングを成功裡に為し遂げたとは、ある考えの再構築が成功したことと同義である。

考えること、こそ重要である。また困難である。

考えるとは観かたを定めたうえで観ることである。

考えかたとは観かたである。

観かたは、目標によって異なることがある。

モノ・コトには、複数の側面が存在することがある。

観かたは、表現枠組によって制約されることがある。

UML toolは、**考えることを支援**する道具である、**定式化した対象と構造を伝達**する道具である、
そして道具にすぎない。

全ての diagram を最初から仔細に覚えようと「しない」こと、必要かつ十分であればそれで良い。
どの diagram から修得するか：

クラス図 (with 妥当性を確認するためにオブジェクト図)

シーケンス図 (with 概要把握とレベル確認のためにユースケース図)

アクティビティ図

なお併せて **Conceptual Framework** (17115 /w 1087) にも触れるよう試みる予定である。

技能は、知識だけでは成り立たたず、実践と経験も、共に必須である。また、知識と実践と経験とは、
それらが三つ巴しながら、正のスパイラルを成しながら、高くなっていく。したがって演習は想い
のほか重要である。加えて、各自の成果を他者と議論することも。

お題

今回の講習会は演習を主として、説明や操作や考え方のお手伝いをさせていただくなつもりです。その事由は [introduction](#) の後半に述べました。

お題は、各自で選んでみることが良いように思えます。その「選びかた」から経験が始まるからです。モデリングする対象を大きくし過ぎないことが、とくに初めのうちは肝要です。

静的なモデル であれば、対象を一つに絞って、あらかじめ「ノートパッド」や「テキストエディット」などに書いておいてください。ただ、たった一つの対象をモデルとして記述しようとする際にも、実は周辺の多くの知識も援用する必要のあることを意識して、それもメモしておくとよいでしょう。

動的なモデル であれば、step 数が 3～9 の「お題」を、やはり「ノートパッド」や「テキストエディット」などに書いておいてください。

対象領域は なんでも構いませんが、せっかくですから 漢方や鍼灸の分野から選んでみてはいかがでしょうか。

もし東洋医学の分野で適當な「お題」を選ぶことができなかったら、静的なモデルでは イス や イヌ、動的なモデルでは、臨床なら静脈採血、業務関係なら論文作成や稟議書作成などはいかがでしょうか。

静的なモデル、イス や イヌ のモデリングなど簡単に思えるでしょうけれど、Class を定義した以上は、他の Class と弁別できることが求められます。或いは、Class から生成した instance が他の instance と異なるように表現できる必要があります。

動的なモデル の場合は、step 数を少なくして小さなモデルにしてみたつもりでも、逆に各々のユースケースを大きくしてしまったなら、結局は大きなモデル（=ユースケース）だったということになるでしょう。もしそう気づいたならば、そのようなユースケースは、必要に応じて適切に、分解し統合する必要がある、ということです。そのようにしないと、適切な Class diagram を策定できないはずですし、そもそも適切な Sequence diagram や Activity diagram を描けないはずだからです。

とにかく百聞は一見にしかず、千里の道も一步から。



© 2010 Prof.Yasuyuki Hirose

2010.11.16